

柏木ビジョン

新宿区立
柏木小学校

2024.5.24

3年生 国語『もっと知りたい 友だちのこと』(聞く 話す) コース別学習

スポーツテスト後の4時間目、授業も終わろうかという時間に子どもたちに、「国語って好き? それはどうして?」
とたずねると、聞いた全員が「好き、たのしい」と答えました。

「みんなとかかわりがあるから」(基礎コース)

「みんなと意見が共有できるから」(基礎コース)

「みんなの意見が聞けるから」(基礎コース)

「ほめられるし、間違えても怒られないから」(基礎コース)

「いろんなことを学べるから」(発展コース)

「友達に自分のことを伝えたい」(発展コース)

「みんなの意見を聞いたり質問したりすること」(発展コース)

「自分の意見を発表するのが苦手だから、相手の意見を聞くと勉強になる」(発展コース)

3年生から始めた国語のコース別学習。コースは、授業の進め方の説明を受けた後に、各自が自分に合った学び方を選択して授業に臨みます。スポーツテストに頑張りすぎたせいか、出だしはどちらのクラスもゆっくりでしたが、途中からボルテージが上がってきました。

それぞれの先生方に、国語のこの単元でめざしていることを訊いてみました。



国語大好きー!

基礎コース 田中先生の実践と思い

本校で昨年度から3年生と4年生の国語をコース別学習で指導してくださっているのが、田中先生です。

田中先生の授業に出会うと、子どもたちは、文章の読み取りや分析を喜々として行い、友達に対して自分の仮説や証明を展開する姿が見られるようになり、めざましい成長をしていたのが印象的でした。

そんな田中先生が出会ったのは、基礎コースを選択した3年生の子どもたち。そもそもこの子たちの特徴をあげると、

- ・国語が嫌い(苦手だから)
- ・文が書けない
- ・人の前で話ができない
- ・国語がつまらない
- ・授業は黒板を書き写すだけ



田中先生

というような、総じて自信がないという状態でした。この子たちに、「国語っておもしろい」「自信をもってもらいたい」という思いで、指導を始めたのが4月だったそうです。

「この単元では、一個ずつ教えて、ゆっくり育ちを待とうと思います。教師の思いはいっぱいあります。基礎コースの子のほとんどは、手を上げたことがなかったり、自分から自発的に考えたことがなかったりしたようです。そもそも自分に自信がない子たちなんです。」

と、話してくれました。小さなステップをほめて、はげまして、自信をつけることなど、積み重ねを大切にしているということでした。

「4月の物語の学習で、読んだことから、感想を話し合いましょう。感じたことをノートに書きましょう。」

このように投げかけたところ、ノートに何も書き出せない子、何を言われたのかが想像がつかない子たちが続出したそうです。子どもたちにとって、文章から直接想像したり、考えたりすること自体が、どういったことなのかをイメージすることが難しかったようです。そこで田中先生は、文章ではなく単語に焦点をおいて、そこからイメージをわかせるようにしました。

5月となり、現在の単元になりました。「自分の好きなこと」を相手に「話して」「考えて」「質問に答える」という内容のものです。ところがここからいくつかのステップが必要となりました。

- ①自分の好きなことがわからない→とにかく全部書こう。そのまま文
にすればいいんだよ。

思いが初めて文に

- ②書いたものを恥ずかしくて読めない→少しずつ声に出そう。

声の出し方をつかもう

- ③何を質問していいのかわからない→質問とは？質問の簡単

読めてきた

なポイントは

- ④どう答えたらいいのか？→答え方の簡単なポイント

ちょっと言えたかも

- ⑤お互いのいいところやがんばりをほめ合おう

ちょっと言えたかも

うれしい！

基礎コース 田中先生の授業

時間の目標

質問をして答えてみよう

発表者が発表をして、質問係が質問をします。その他にお助け係というのがあって、話し合いをサポートしています。答える係や質問する係となった子がうまく出せないときには、お助け係が登場するようです。

発表は1周で終わるのではなく、役が順に進み、同じことで2回目以降も発表し、質問者が変わっていく方式でした。ある子は発表を聞いて、びっくりしたことをノートに工夫してまとめていました。

「自分があたり前と思うことも、みんながびっくりすることがある。」

「1回目よりも2回目のほうが声が大きかった。」

子どもたちそれぞれの育ちを感じた1時間でした。



発展コース 菅野先生の授業

「発想を柔軟にして、様々な見方や考え方を育てていきたい」

と話すのは、菅野先生。本校4年目で、今年度は3年生と4年生の国語のコース別学習を田中先生といっしょに指導しています。様々な気付きをもたせるのに、大谷翔平選手で有名になった「曼荼羅チャート」を子どもたちにつくらせてみたり、指導方法を工夫改善して子どもたちに提示したりと、意欲的に取り組んでいます。

この單元では、「自分が好きなことを表現すること」とともに、「話したいことを整理して表現すること」「話すために書いて表現すること」など、いくつかのポイントをあげています。

まずは、モニターに向かって、菅野先生のところで飼われていた犬の発表を例示して、子どもたちが質問をして、発表の仕方やメモの取り方を確認します。その上で子どもたちが用意した発表がそれぞれの班で展開されていきます。聞いている側は、発表された内容をメモにとってまとめていきます。メモの取り方として、できるだけ短くという指示が出ていました。

ふと、子どもたちが発表の時に使用しているのは、活字になっていることに気がきました。前のノートをめくってみると、同じ内容の手書きのノートが出てきました。菅野先生に尋ねてみると、タブレットの打ち込みや操作にも慣れてほしいとのこと。子どもによっては、発表が複数になっているのも見受けられました。

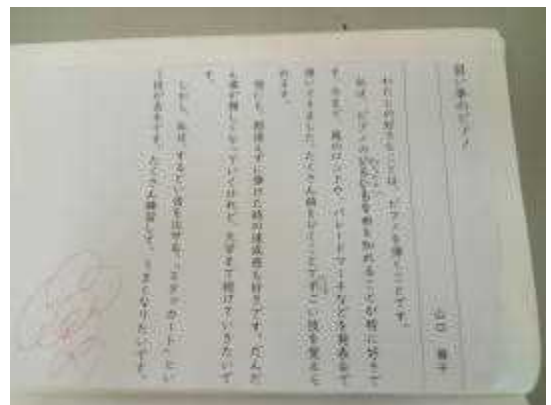
「自分が進めたい学び方や発表の仕方に任せてみるのも、個別最適化学習では大切だとおもっています。」と答えてくれました。学ぶことが分かり、それぞれの子が認め合う学習となっている印象です。



発表者以外はシートにメモ



手書きのノート



タブレットに打ちこんだシート

